

おたわらし

No.07 栃木県大田原市「株式会社かなめ」



(左) 食料品店 (右) 交流の場となっている休憩スペース

食料品店やガソリンスタンドの閉店を受け、地域住民が協力して住民の生活支援のための店舗を開設。生活サービスだけでなく地域交流の場としても機能し、地域の発展に寄与。

●取組の概要

地区唯一の食料品店とガソリンスタンドが後継者不足等により2020年2月に閉店したことに伴い、高齢者らの「買い物難民化」を危惧した住民有志が対応策を協議し、店舗再生に向けて動き出した。

地域住民のみならず、古くからの地域のよりどころである寺院「雲巖寺」を中心に、郵便局や学校等の関係者の協働により取り組み、「小さな拠点」づくり事例集を参考に、わずか4か月余りで食料品店とガソリンスタンドがオープンした。

運営会社である「株式会社かなめ」の代表には店舗開発経験のあった雲巖寺副住職の高憲氏が就任し、栃木県及び栃木県よろず支援拠点の財政・技術支援を得て会社を設立した。

●取組を通じた地域の変化

開店セレモニーで雲巖寺の原宗明老師は、「買い物できる場所がなくなつてはこの地域がつぶれてしまう、地域をつぶすわけにはいかない!と考えた。」と、店舗再生に協力した理由を語った。この取組により、地域住民の生活利便性の維持が実現されたほか、休憩スペースを確保するなど地域住民の交流の場として機能するような工夫もされている。

さらに、地域運営組織である「やみぞあつまっぺ協議会」とも連携し、地域農産物である「ゆず」や唐辛子を活用した地元生産品を販売するなど6次産業化にも取り組んでいる。

●今後の展望

今後は移動販売車による移動販売やそば店の開店も予定しており、食料品店としての機能だけでなく、地域コミュニティ拠点としての機能や災害時の備蓄など、多岐にわたる役割を担うことが期待されている。